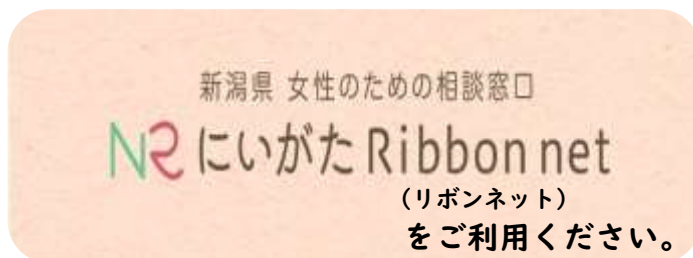
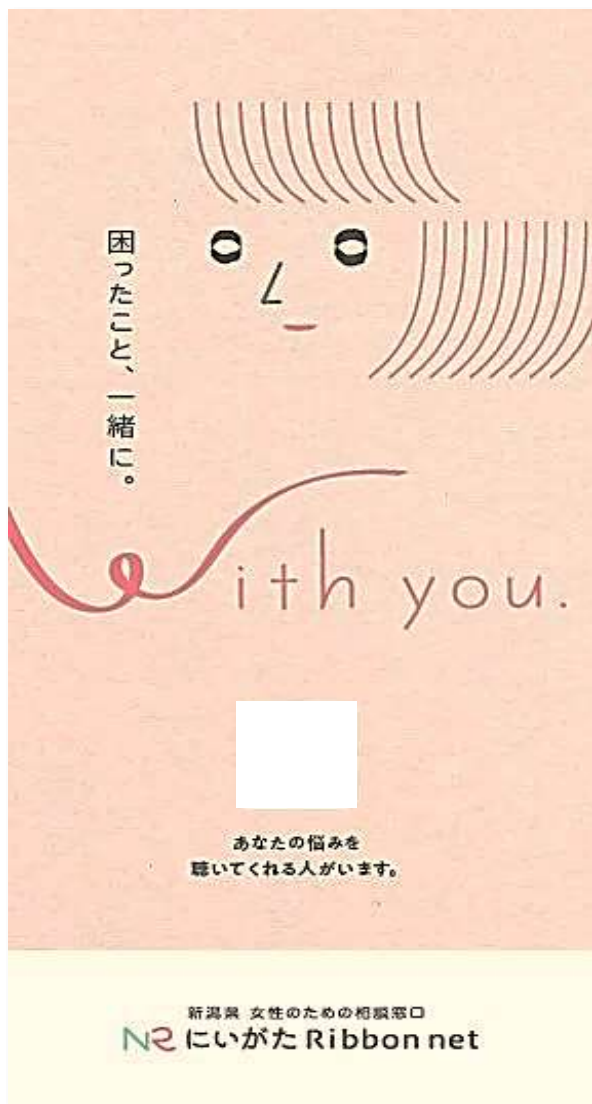


新潟県女性センター情報

男女が共に参画し 多様な生き方が選択できる社会をめざして



あなたと一緒に考えたい

困っていること、ありませんか

新潟県では新型コロナウイルス感染拡大などにより、様々な不安や悩みを抱える女性を支援する相談窓口「にいがたRibbon net」をスタートさせています。孤独や孤立、離職や経済的な困窮、性暴力やDV（配偶者暴力）による被害、子育てに関する悩み……。

ここでは公的な相談機関やNPO法人など、様々な相談・支援窓口が紹介されています。右下のQRコード又は、女性財団のホームページRibbon netのバナーからお入りください。

メールや電話、LINEなど、あなたが話しやすい窓口から、困っていること教えてください。

あなたを支えてくれる人が見つかるはずです。



▲
各種相談窓口は
こちらから

相談窓口で必要な方に生理用品（1包み）をお配りしています。お困りの方など、一度相談してみませんか。

<配付している主な窓口>

県ホームページ

新潟 男女平等 ribbonnet でご確認ください。

- ・ 県男女平等推進相談室
- ・ 市町村相談窓口
- ・ 新潟県女性財団、ひとり親家庭等就業・自立支援センター
にいがた被害者支援センター、県パーソナルサポートセンター
ハローワーク、新潟県フードバンク連絡協議会 など



▲（生理用品配布カード）

相談窓口を設置してあるこのカードを窓口にお示ください。（カードがなくても、お申し出くださればお渡ししています。）

トピックス

令和3年度 女性に対する暴力をなくす運動

～ユニゾンプラザをパープル（紫色）でライトアップ～



令和3年度テーマ

『性暴力を、なくそう』

毎年11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。シンボルカラーであるパープル（紫色）にちなんだキャンペーンが全国各地で開催されます。

今年度のテーマは昨年に引き続き「性暴力を、なくそう」。新型コロナウイルスの感染拡大で全国的にDV（配偶者暴力）や性暴力被害の相談件数が増えています。

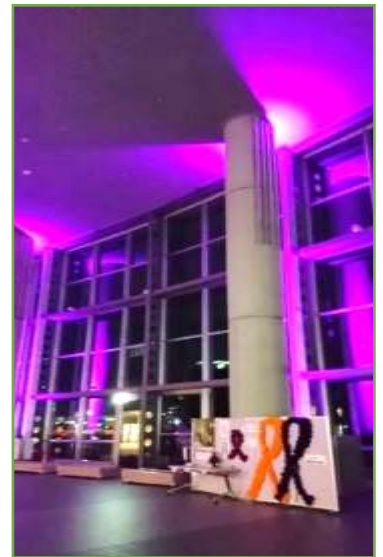
県内でも犯罪被害者の相談の半分以上が性被害で占められています。どのような形で女性への暴力は許されません。

新潟県女性財団では、期間中、パープルリボンの着用を呼びかけるほか、新潟ユニゾンプラザをパープルでライトアップします。

このライトアップには、暴力根絶を広く呼びかけるとともに、被害を受けた方に「一人で悩まずに、まず相談」というメッセージを込めています。



昨年度のパープルライトアップの様子 ▶
(新潟ユニゾンプラザ)



男女共同参画の視点からの防災対策

今年6月から、全国の女性センター等による災害時の「相互支援ネットワーク」づくりが始まっています。大規模災害時に女性センター同士が情報交換や相互支援を行うもので、専用の情報サイトの立ち上げやセンター職員を対象とした災害研修が始まっています。

「男女共同参画の視点」から防災対策を考えたことはありますか。過去の災害では避難所は作ったけれど男女別の更衣室も、トイレも、洗濯干し場も、授乳室も考えていなかった、といった事例も起きています。避難所の運営は男性ばかり、炊き出しは女性の役割……これで大丈夫でしょうか？

女性の視点から災害対応力を強化する「ガイドライン」が作られています。もう一度、地域の防災対策を見つめ直してはいかがでしょうか。（女性財団ではこうした防災セミナーも開催しています。お問い合わせください。）

すぐに使えるピクトグラム例 ▶



内閣府のガイドライン
(令和2年5月)



備蓄チェックシート
(ガイドライン便利帳から)



セミナーのご案内

企業の女性活躍を加速する

「ダイバーシティ・マネジメント研修」開催中

今年度から、企業の女性活躍を加速する「ダイバーシティ・マネジメント研修」全5回のオンラインセミナーを開催しています。(新潟県受託事業。9月5日～11月28日)

堀越学さん(ファザーリングジャパン理事)による「女性活躍・ダイバーシティを進める職場づくりのポイント」からはじまり、第2回「女性のキャリア支援・女性リーダーの育て方」、第3回「誰もが活躍できるコーチング型マネジメントを学ぶ」、第4回「無意識の偏見/アンコンシャス・バイアスの理解と対策」と、それぞれの企業で、女性活躍を加速していくため、管理職の方や人事担当の方などを対象にしたセミナーです。講師のレクチャーに加え、グループワークでの話し合いや情報交換も好評でした。

11月28日(日)には、最終回「ハラスメントを防ぐ職場のコミュニケーションスキル向上」を開催します。どうぞお申込みください。

また、来年1月からは働く女性のキャリアアップセミナー(全5回。オンライン)が始まります。詳しくは財団HPまで。



あなたの企業の女性活躍に女性財団をご活用ください！！

女性財団では、企業の女性活躍を応援しています。ハラスメント対策、女性リーダー育成、育休後の職場復帰などの職場研修の開催や講師紹介など、お気軽にご相談ください。

また、女性財団の開催する様々なセミナーを企業の職員研修に利用してみたいはいかがでしょうか。人材育成のヒントが見つかるかもしれません。

女性センター講座 一開催報告～

～政治分野の男女共同参画を考える～

「ジェンダー平等と政治」



◀ 岡野先生
(オンライン)

パブリックビュー
(糸魚川市)



8月29日(日)同志社大学教授 岡野八代さんをオンラインでお迎えし、政治分野での男女共同参画を考えるセミナーをユニゾンプラザで開催しました。(新潟市共催)

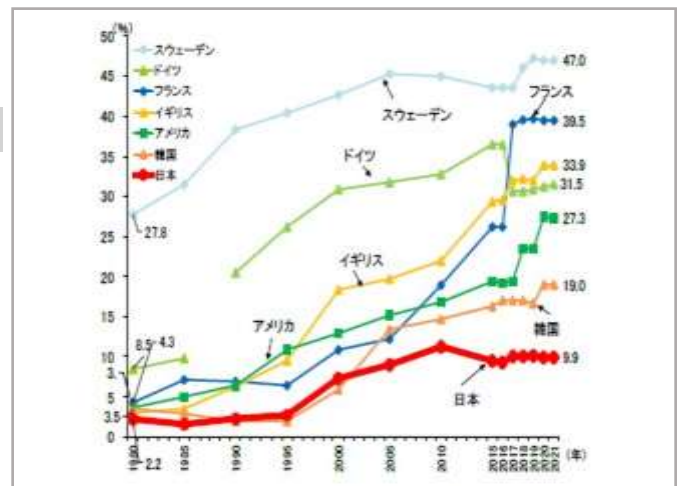
当日は、オンラインを含め55人の参加があり、女性の参画が進まない理由として、これまで女性はケア(家事、育児、介護など)を担うものというジェンダー秩序の存在やケアの価値が低い社会の現状、ケアを担う人の政治参画の必要性など、社会の課題が明らかになりました。

この講座では、パブリックビューイング(公開視聴)が糸魚川市で実施されました。財団が主催する無料セミナーは、自治体や団体・グループでオンラインでも視聴できます。ご希望の方は、財団までお問い合わせください。

数字で見る ジェンダー

女性の政治参画 (国会議員に占める女性の割合)

衆議院総選挙が終わりました。新しい衆議院議員に占める女性の割合は9.7%。改選前の9.9%から更に0.2ポイント減少しています。諸外国では、フランスで39.5%、イギリスで33.9%、韓国で19.0%ですから、いかに日本が遅れているかわかります。これらの国も昔から高かった訳ではありません。何故この20年間、日本の女性の政治参画が進まなかったのか、考えてみませんか。



資料出典:「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書(令和3年3月内閣府)」

会員情報



株式会社シアンス

当社は、平成元年の創業以来、地元新潟のお客様を中心に、システム開発やWebサイト制作の事業を展開しています。

また、「社員＝会社の財産」という思いから、社員一人ひとりが安心して長く働き続けられるよう「働きやすい職場づくり」に長年取り組んでいます。

8年前に財団のWebサイトを制作させていただいた際に、財団の「男女共同参画」の目的に賛同し入会しました。以降、主催セミナーの受講や情報誌の社内配布をしています。特に、「産休・育休からの復帰後の働き方」講座は育休中の若手社員に大変好評でした。



育休中の女性社員との社内面談



育休取得する男性社員のお祝い会

社員の7割が20～30代で、夫婦共働きの子育て世代が多いことから、仕事と家庭の両立ができるよう、**男女ともに育児休業**の取得を積極的に奨励しています。本年は女性社員1名、男性社員2名が育児休業を取得しています。

また、近年では管理職に抜擢され活躍している女性社員が増えています。

<お問い合わせ先>株式会社シアンス

〒950-0088 新潟市中央区万代2-3-16 リバービューSDビル10F

TEL:025-246-4666 FAX:025-246-5777 info@siance.co.jp

新潟県男女平等社会推進課からのお知らせ

「第4次新潟県男女共同参画計画（男女平等推進プラン）」を策定しています

県の「第4次男女共同参画計画（男女平等推進プラン）」（令和4年～8年度）の策定が進められています。

今年1月、知事より審議会に諮問があり、9月に開催した令和3年度第2回の審議会では、次期計画の素案をお示し、様々な御意見を頂戴しました。

今後は、11月に開催される第3回審議会で、修正案を審議いただいた後、県民の皆様から広く意見を募集し、令和4年3月に新しい計画が策定される予定です。



令和3年度第2回審議会の様子
（オンライン併用開催）

編集・発行

公益財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-2
新潟ユニゾンプラザ2階/新潟県女性センター



HP



FB



twitter

- 電話 025-285-6610
- fax 025-285-6630
- メール npwf@npwf.jp
- ホームページ <https://npwf.jp>
- Facebook 新潟県女性財団
- twitter @npwfniigata

【編集後記】2回目のワクチン接種も無事に終わり、大きな副反応もなくほっと一安心と思った矢先、いずれ3回目の接種が必要になるとは。

コロナが早く収束してほしいと願いつつも、マスクのおかげですっぴんの頻度が増して、すっかりズボラが板についてしまっています。（みつ豆）